

〔地域散歩・鎌倉〕

鎌倉散歩 2

赤池 洋二

All about SWINE 62, 37-40

前号の続編です。お楽しみください。

7. 覚園寺

覚園寺は鎌倉宮を出て右方向に10分程歩いたところにあります。

この寺は1218年、北条義時（北条二代執権、北条政子の弟）によって建立された薬師堂がはじまりと言われています。第九代執権・北条定時は元寇の再来襲のないことを願って、真言、天台、禅、浄土の各宗派を学ぶ道場として、覚園寺としました。ここは自由に拝観することはできず、決められた時間に寺僧の案内に従ってのみ拝観が許される、鎌倉では唯一の寺です。1354年足利尊氏が本堂を再建したそうですが、天井の板書に「征夷大將軍正二位源朝臣尊氏謹書」（現在は文字がかすれて読み取りにくい）とあるのを寺僧の説明で知ることができます。本堂内には中央に運慶作と伝えられる薬師三尊、その右側に理知光寺から移転された阿弥陀如来像（鞞阿弥陀）が安置され、周囲の壁際には十二神将、日光、月光菩薩等が祀られています。残念ながら寺内は撮影禁止です。寺域は広大で、北側は山の反対側にある北鎌倉の建長寺の寺域に接しているそうです。本堂の床は土（三和土）のままです。

8. 荏柄天神

学問の神様、菅原道真を祀る天神社の中で、日本三大天神を唱える天満宮は全国に11社あるそうですが、その中に荏柄天神も含まれます。源頼朝が鎌倉守護を願って、1104年に創建しました。境内には漫画家の清水崑が寄進した筆塚（愛用した筆を収めた）があり、裏面に川端康成の揮毫による「かっぱ筆塚」の銘があります。その背後には横山隆一らが1989年（平成元年）に建立した絵筆塚があります。青銅製の高さ2m、径1m、重量800kgの筆の型を模したもので、その表面には日本の漫画家154人がそれぞれのキャラクターを「かっぱで表現したレリーフ」を見ることができます。



荏柄天神の山門

9. 源頼朝の墓

頼朝は1199年に亡くなりましたが、亡骸はこの地にあった法華堂に埋葬され、鎌倉の聖地となっていました。現在の墓は1779年、島津重豪（島津家25代当主、薩摩藩8代藩主）が再建したものだそうです



頼朝の墓

10. 法華堂（持仏堂）跡

頼朝の墓に隣接して持仏堂跡があります。この奥に鳥居が見え、そこから急な石段を数十段登ったところにやぐら（お墓）があります。三つ並んでいる墓の右端は薩摩藩の祖となる島津忠久、中央が鎌倉幕府の別当（政務長官に相当）であった大江広元、左端がその息子である毛利季光の墓です。

島津忠久も毛利季光も頼朝の股肱の臣で、それぞれが薩摩藩、毛利藩の祖となった人たちです。明治維新に深いかかわりのある薩州、長州の始祖が同じ墓所に眠っているのには因縁を感じずにはられません。

頼朝の墓の前面一帯が鎌倉幕府（大倉幕府）のあったところで、隣接して横浜国大付属小・中学校がありますが、そこは頼朝の屋敷があったとこ



島津忠久の墓



大江広元の墓



毛利季光の墓

ろだそうです。ここに隣接して鶴ヶ岡八幡宮があります。

11. 鶴ヶ岡八幡宮と白旗神社

鶴ヶ岡八幡宮は、廃仏毀釈が行われる以前は神仏混淆で、鶴ヶ岡八幡宮寺と呼ばれていたそうです。

その名残が白旗神舎の手水台にあります。本殿前の階段右にある社務所の裏手に白旗神社（1200年北条政子が創建、祭神は源頼朝・実朝）がありますが、ここで手水鉢を載せる台座に使われているのが、以前仏様が鎮座していた石造の蓮のうて



鶴ヶ岡八幡宮本殿



手水鉢の台座に使われている蓮のうてな

なです。教えられなければ気づく人はほとんどいません。

12. 宝戒寺

鶴ヶ岡八幡宮を出て左手突き当りに宝戒寺があります。北条一族が居住していた屋敷跡だそうです。1333年、新田義貞に攻めたてられた北条高時（第14代執権）は戦に敗れ、屋敷の裏山にあった北条の菩提寺である東勝寺に火を放ち、一族郎党800余名が自刃して果てました（腹切りやぐら）。後醍醐天皇は1335年、高時の霊を慰めるため足利尊氏に命じて宝戒寺（天台宗）を建立させました。秋は萩がきれいなので萩寺とも呼ばれています。



宝戒寺

13. 腹切りやぐら

北条執権の終焉の地です。東勝寺合戦で新田義貞に敗れた北条高時とその一族郎党が自らの命を絶った場所が腹切りやぐらです。

付近一帯は鎌倉きってのパワースポットとして知られ、靈感の強い人には震え、悪寒、心拍異常、幻影などが現われるといわれていますが、周辺の住民は何も感じないのででしょうか。



腹切りやぐらへの入口



腹切りやぐらの石柱(右の階段は祇園山ハイキングコース)



北条高時の腹切りやぐら

14. 鎌倉幕府（小町幕府）跡

源実朝の死によって鎌倉幕府の実権が北条執権に受け継がれてから、幕府の政所も大倉の地から小町周辺に移されました。現在、この地域には住宅が密集し、軽自動車も通行できないような細い通路でつながっています。その一角に鎌倉幕府跡地の石碑があります。

この近くに作家大佛次郎が書斎として使っていた平屋の古い建物があり、土、日、祝日の午後のみ「大佛茶廊」として営業しています。春と秋に一日づつ（1年に2日のみ）書斎を無料で一般公開しているので、在りし日の文豪の書斎を偲ぶことができます。大佛茶廊を出て右手に曲がると、鶴ヶ岡八幡宮の表参道である段葛のちょうど中間点（鎌倉駅まであと10分）に出ます。



鎌倉幕府跡を示す石碑



大佛次郎の書斎（大佛茶廊）